

こどもたちのためのアートプロジェクト

絵本「ラストダンス展」

- 忘れられない3日間 - 開催レポート

絵本「ラストダンス展」の3日間は、言葉に表すのが難しいほど、多くの喜び、気づき、果報をもたらした、私たちにとっても忘れられない3日間でした。

この3日間だけではなく、「ラストダンス展」を開催しようと決めた時から、ラストダンスという大きな閃光の中を歩いているような日々でした。そして、ラストダンスは大分から始まっただけで、これから主要な場所で続いていきます。この閃光は全国各地に広がっていきます。

「ラストダンス展」に遠方から参加してくれたみなさんへ、ラストダンスの閃光が少しでも伝わるようにこのレポートをお送りします。

ひとりひとりの、支援がこの未来に「YES！」と言っているようで、ひとつひとつの支援が本当に励みになりました。YESをありがとう。本当に心強かったです。本当に嬉しかったです。ありがとう。

大分とは、私たちの生まれた場所なのですが、閉鎖的でオープンではない場所です。「私たちの中にこそ、素晴らしいものがある」というメッセージが本来なら届き広がる場所ではない雰囲気がありました。だけど、今回、このとても高いビジョンが形になって3日間も、大分の中心地に現れました。そして、内側に大切なものがあるのだと気づいているこどもたち、今までそれを大切にしてきた大人たちが、このメッセージを体験し、それぞれの場所でまた広がっていきます。

「ラストダンス展」にたまたま訪れた、腰の曲がった高齢の女性が「あんたら、素晴らしいことしょんね。感謝せんといかん。ありがとう。ありがとう。」と黄金色に手を合わせていました。

ほとんどおしゃべりをしない、10才くらいの女の子は、食い入るように原画を見ていました。ラストダンス展を出ると、買ってもらった色のカードを胸に抱いて、くるっと一周満面の笑みでスキップして回転しました。本当に、本当に、色の空間が嬉しかったんだと思います。

寝たきりの車椅子の女の子は、お母さんに車椅子を押してもらい音読してもらいながら見ていましたが、「あなたは見つけました」の原画を見た時、本当に嬉しそうな顔で笑って何度も首を横に倒して原画を見ていました。

会場で、佐賀からきた小学2年生、3年生の2人の兄弟に、ソウルカラーをすることができました。自分の色が仕上がるところを見て「きれいやな～」と嬉しそうに言っていました。そのあと、彼らのおばあちゃんから連絡があって「色をじっと見ていると、本人に見える。不思議やな」と伝えてくれました。幼い二人の兄弟を、幼い男の子ではなく、「純粋さ、賢さ」その質そのものとして捉えることができたのです。彼らの色は、「純粋さ、賢さ」の青でした。

「ラストダンス展」がなかったら、この全てはなかったのです。

あまりおしゃべりをしない女の子に、誰が話しかけることができるでしょうか？それは、ラストダンスという空間、色を通して、言葉を越えたものが可能にするのでした。

幼い兄弟は、とても元気がよくわんぱくです。彼らの「純粋さ、賢さ」の質をどうやって大人は見つけることができるでしょうか？ここでソウルカラーをしたことで、彼らは自分たちの本質を自分だと、とらえることができます。その周りの大人も、彼らの本質を、彼らだと認識する視座を持てます。その環境でこれから育っていくとき、大人になって彼らの美しさが花開くような気がしませんか？

「ラストダンス展」は累計250名ほど来場者がいましたが、大勢多数の人たちのものではなく、「内側に素晴らしいものがある」とどこかで知っている、または知りたい、少数の人たちのものだったように感じます。

もしも、費用対効果を考える企業だったら、このラストダンス展は絶対にできないでしょう。彼らが一人でも来るのなら、このラストダンス展はしなければいけないものなのだと、私たちは思っています。

なぜなら、「すべての人の中に素晴らしいものがある」と、その永遠の愛を知った人が1人でもいることが、どれだけ強力な世界の変革になるかを知っているからです。1人でいいのです。それが、2人、3人と増えるのなら、それはものすごいことです。

インドの聖者の言葉

「成長した木にはたくさんの実がなり、そのひとつひとつにたくさんの種がついています。その種を蒔くと、また別の木になり、さらに多くの実と種をつけます。このように、1本の木が指数関数的に増殖し、やがて膨大な数の木になるのです。同じように、子供の純粋な心に善意と無私の心を蒔くと、それは無数の善意へと増殖し、行動に移されたときには、世界全体を変えるほどのポジティブな行動の洪水となる可能性を持っています。」

無私と善意をありがとう。

「ラストダンス展」は、この純粋さと、無私と善意が形になって現れていました。これから、3年後、5年後、この種は、無私と善意という美しい花となって世界に咲くことでしょう。

be Happy

写真でたどる「ラストダンス展」

7/3・7/10に開催された

「2day カラーワークショップ」

1日目は、言葉、匂い、音を色にしてみる時間。
2日目は、「優しさ」「忍耐」などの体験を色にして、それを次は言葉にしてみる時間。
すごく深い時間でした。





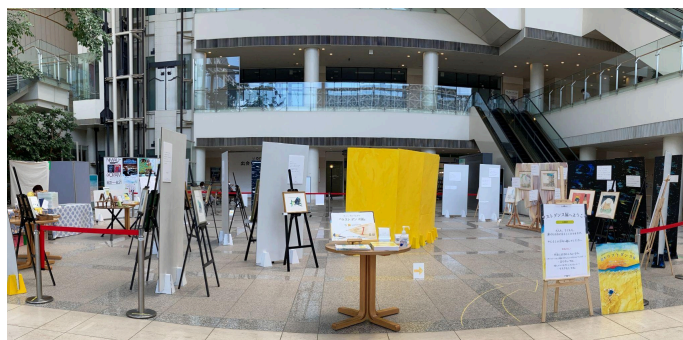
7月4日 ラストダンス展 制作準備

美術館の準備室を借りて大物制作・・・
色に1日中ふれられる時間。
24枚の作品を作りました。



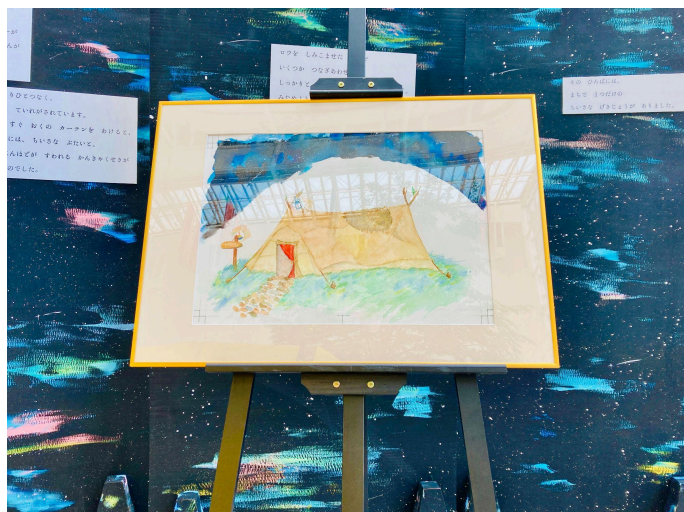
7月16日～18日 ラストダンス展

さあ、右側の矢印から入ってください^^
 絵本の物語を、
 巨大展示と原画で体験できるようになっています。
 巨大展示は180cmと迫力があるんです！



宇宙の幕が開いて、この物語は始まります。





少年が、風に呼ばれた日。

少年は風に合わせて、夢中でダンスを踊ります。

風に呼ばれた色と、

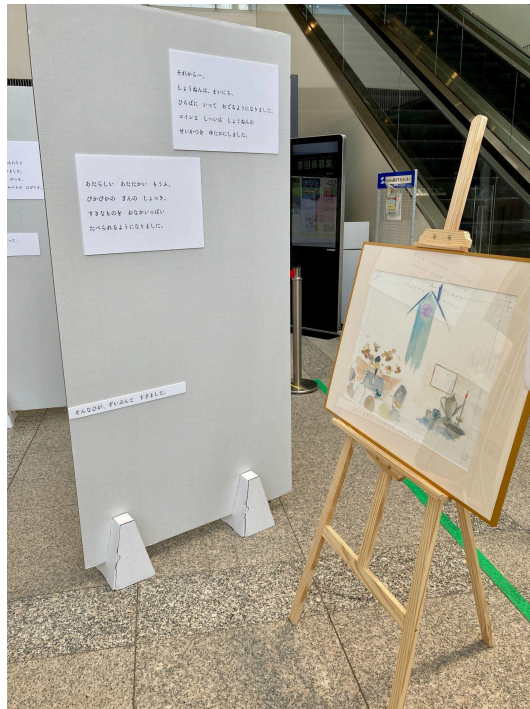
同じ色の布が背景を飾っています。

(この布は、2018年のアートプロジェクトで70mの廃材シルクを染めたものです^^)



路上で踊るようになった少年。

真っ白い背景に物語の言葉が浮かんでいます。



同じパネルの裏には、
しゅんぼりと歩く少年の姿がありました。



そんなある日、もうすぐ祝祭がやってきます。
背景はペルーの手織りの布です。

楽しそうな雰囲気があります。



その裏のパネルにをのぞくと、
夜がふけて、明日はとうとう祝祭です。



その夜、少年は夢で呼ばれるのです。
このパネル一体で、夢から深い眠りに入り、
少しずつ起きていく様子を体験できます。



ご—ご—ご—

ひゅ—————

ご—ご—ご—



祝祭当日。
街は賑やかです。



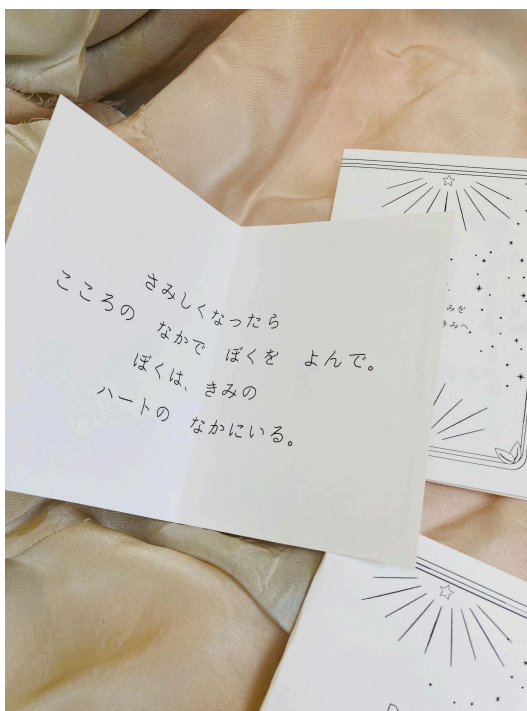
しかし、しょうねんは
ひろばには いませんでした



最後、しょうねんは、この黄金色のパンパスグラスにひとりいるのです。

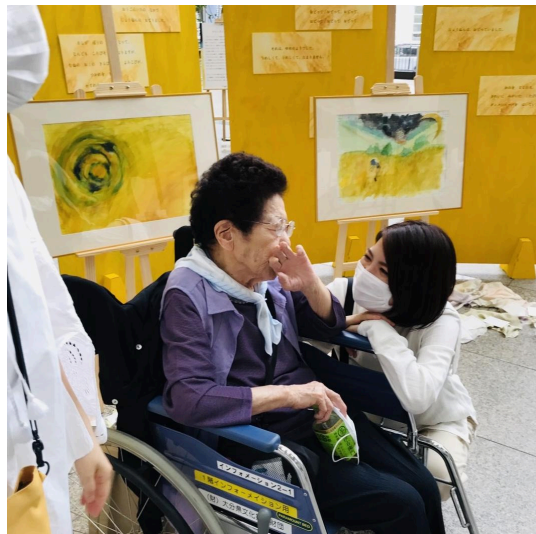
かれは、いつも、ひとりで、じゆうに、
こころゆくまで おどりました

パンパスグラスの下には、
少年からの手紙が置いてあります。



ひとりひとり、少年からのメッセージが届きます。

「ラストダンス展」の風景











*To the next place
to be continued...*